

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 6名回答、回答率 100%
保護者様： 20名回答、回答率 83.3%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・床のラインで空間を分け、必要に応じて机を異動したり片づけたりして安全面に配慮している。
- ・構造上、死角になる場所やトイレ前に段差があるが、安全面に配慮した職員配置や必要に応じた個別対応(介助)を行い問題なく過ごせている。
- ・人員基準は満たしているが、送迎の時間帯によっては職員数が限られることがあるため、今後も送迎調整や配置、環境設定に配慮して運営する。

○業務改善

- ・教室内研修を開催しているが、不定期で時期に偏りがあるのが現状のため、時間を確保し定期的を実施することが今後の課題である。
- ・支援内容や児童について話し合うべき事例が発生した際は、都度ミーティングを実施し職員間や心理士チームと連携を取るようになっている。

○適切な支援の提供

- ・集団療育活動の内容は、毎月のテーマに沿って曜日にも配慮しながら計画している。また、活動全体のねらいの他に個別支援計画に基づいた個々の課題や達成度を設定し、支援基準を明確化している。
- ・常勤職員で業務後ミーティングを実施し療育の振り返りを行い、内容を翌日の業務前ミーティングにて非常勤職員へ共有し、支援に反映している。

○関係機関や保護者との連携

- ・保護者とはサービス提供記録、送迎時、電話、メール等で連携をとることができている。
- ・学校や相談支援事業所、他事業所(放デイ)とは適宜、情報共有を行っている。市の事業所連絡会や研修には参加しているが、今後もより多くの情報共有の機会を設定していきたい。

○保護者への説明責任等

- ・ニュースレター、サービス提供記録、家庭連携等を通じて日々の利用者の様子を共有している。
- ・契約の際は、必ず重要事項や個人情報の取扱いに関して説明を行っている。

○非常時等の対応

- ・毎月一回、地震・火災・水害・不審者対応等、様々な状況を想定した避難訓練を実施している。
- ・アレルギーのある利用者に関して、保護者からお知らせいただき教室職員全員で共有している。
- ・虐待防止のため定期的に虐待防止研修を開催し、職員間での意識を高めている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

- ・活動スペースについて、「部屋がL字なので常に死角に気をつけてくれる」「出入り口はやや段差があるが、低いので良い」「空間を上手く活用している」とのご意見をいただいた。
- ・専門性について、「活動や支援のベースに心理士の研修等があり、支援方法が的確で安心してお願いできる」とのご意見をいただいた。

○適切な支援の提供

- ・活動プログラムについて、「様々な角度からのプログラムでいい」とのご意見をいただいた。一方で、「繰り返すことで理解が深まることもあるので、ある程度固定化してもいい」とのご意見もいただいた。
- ・支援計画が課題やニーズに沿っているかの問いに対して、多くの保護者から評価いただいた。
- ・施設外の児童との交流について、「時間的に難しいのでは」「学校単位でないと成立しないのでは」「通常のお子さんが受け入れてくれるかわからないので、不安の方が大きい」とのご意見をいただいた。

○保護者への説明等

- ・保護者会や保護者同士の連携の機会について、「感染症が凄いで仕方ない」「機会を設けるのは大変かと」とのご意見を多数いただいた。一方で、保護者会を希望されるご意見もいただいた。
- ・保護者との情報伝達や支援については、「様子を伝えてくれ安心して通える」「相談に乗っていただき、的確なアドバイスに助かっている」などのご意見をいただいた。

○非常時等の対応

- ・非常時の対応マニュアルの周知・説明について、「どちらともいえない」「いいえ」とのご回答もあったため、周知方法を検討する必要がある。

○満足度

- ・「通所が複数年になり、ものたりないと感じているよう」「学童より自由がきかないと思っている」とのご意見をいただいたが、多くの方から子どもは通所を楽しみにしているとの評価をいただいた。
- ・事業所の支援に満足しているかについて、95%の方から「はい」とのご回答をいただき、満足度が高いことがうかがえた。「スマートを利用してから、色々なことが出来るようになった」とのご意見もいただいた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・学校公開や地域の連絡会等に積極的に参加し、関連機関との情報共有の機会を増やす。
- ・感染症対策を講じたうえで、少人数による近隣施設での買い物学習や近隣公園への外出など、短時間の課外活動実施を再開することを検討する。
- ・各種災害時、感染症等に関する緊急時対応についてひとつにまとめ、職員と保護者様に周知する。
- ・対面での保護者会や療育参観の実施に変わる代替案を検討する。(リモート保護者会の開催を企画、ブログによる療育の様子配信、等) また、定期的な教室内研修を実施し、職員のスキルアップを図る。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・開催された参観や研修等、日程が合うものは全て参加し、他事業所等の関係機関との情報共有が行えた。
- ・夏と冬に、近隣施設への課外活動を実施することができた。
- ・緊急時対応について、感染症の分類移行に伴う対応方針の変更が見込まれたため書類の作成はとどまり、都度のご案内となった。まずは職員間で再度マニュアルを確認し、資料を作成したうえで保護者へ共有する。
- ・保護者会や療育参観に変わる代替案の検討については、いくつか検討したが企画が定まらず、結果として開催することは出来なかった。今後は、実施した他教室の企画を参考にし、感染対策に留意した内容を検討する。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・保護者とは、サービス提供記録、送迎時、電話、メール等、様々なツールで連携がとれていること。
- ・集団療育時、活動全体のねらいの他に個別支援計画に基づいた個々の課題や達成度を設定し、支援基準を明確化することで、適切な支援の提供を試みていること。
- ・ほとんどの利用者が通所を楽しみにしており、また保護者からも事業所の支援に満足していただけていること。

○改善点

- ・保護者会や療育参観、またはそれに変わる代替案の検討、企画、実施にむけて取り組む。
- ・非常時対応マニュアルの周知方法について検討し、必要な資料等の配布準備をすすめる。
- ・引き続き、学校公開や地域の連絡会等に積極的に参加し、関連機関との情報共有の機会を増やす。
- ・定期的な教室内研修や利用者に関するミーティングを開催し、支援の見直しや職員間の連携強化、また個々のスキルアップを図る。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・各種関連機関と連絡を取り合える関係性を築き、利用者への支援の充実化を図る。
- ・感染症の影響で懸念は残るが、状況を判断しつつ地域へ開かれた事業所運営の実現を目指す。
- ・利用者や保護者の要望を取り入れながら、一人ひとりに寄り添った支援を提供できるよう、職員は自己研鑽につとめ、質の良い療育を実施していく。

○1年間で取り組む具体策

- ・引き続き、学校公開や地域の連絡会等に参加し、関連機関との情報共有の機会を設ける。
- ・保護者会や療育参観、またはそれに代わる企画を開催する。また、引き続き近隣公共施設への課題活動も実施する。
- ・緊急時対応について、改めて保護者に周知する。(書類配布、保護者会など周知方法は状況を見て検討)
- ・決められた研修以外に、教室内研修を実施しスキルアップを図る。(年に4~6回程度)

スマートキッズ